

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 3月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	1090700061
法人名	医療法人六花会
事業所名	グループホームあんず
所在地	館林市代官町8番地15号 (電話) 0276-80-2777

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(平成21年 2月 13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人 非常勤 2人 常勤換算 4.6人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日 1,100円		

(4)利用者の概要(2月 13日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 85歳	最低 66歳	最高 95歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	館林記念病院 ・ コスモス歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

徒歩圏内に系列病院、老人保健施設、リハビリ施設が点在している一角にあるグループホームである。系列施設共通の全職員を対象とする研修会が月1回開催されている。職員の自由参加であるが、受講により知識を享受し、サービスの質の向上に活かしている。またリーダーシップをとる管理者と職員が一丸となって一人ひとりの入居者の想いや生活歴を尊重し、利用者本位の生活支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 家族等への報告・意見の反映に関する取り組みとして、運営推進会議や職員会議で検討し改善されている。月1回の「あんず便り」の発刊や意見箱の設置、家族の意見、苦情等が直接職員へ話せる機会の工夫がされている。地域とのつきあいについては、地域の運動会や神社のお祭りに入居者と一緒に参加することや散歩時に言葉を交わし、馴染みの関係を築いている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価及び自己評価の目的と評価票は、管理者から職員へ事前に渡され、日頃の介護と評価内容を各自で比較検討している。各職員が記入した評価票を持ち寄り、全職員でサービスのふり返りに活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回、曜日と時間を決め実施している。主な討議内容として、玄関の施錠について意見交換をしている。その結果、天気のいい日や事務室に職員が在席している時は、玄関から外へ自由に出られるよう取り組んでいる。今後も全面開錠へ向けた話し合いの継続と実現を期待する。また参加メンバーから外出先の紹介やボランティアに関する助言等を頂きサービスに活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 1ヶ月1回「あんず便り」を発刊し、日々の生活の様子を家族へ報告している。また意見箱を設置し、いつでも意見、苦情等が出出できるようにしている。緊急性のある意見等は、その都度話し合いの場を設け運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の人々と挨拶や時には会話を交わす良好な関係である。また、区長、地域住民代表者を運営推進会議のメンバーに位置づけ、地域の行事、回覧板の利用等のアドバイスを受けている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人格の尊重と地域との連携を支柱に、管理者、職員が共に考え、理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員でつくりあげた理念は、一人ひとりの職員に理解され、共有されている。また入居者との関わり方や介護計画や記録類から生活全般の支援に理念が活かされている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板の利用や運動会、神社の祭り等の行事への参加、ボランティアの受け入れ等、地域の人々と積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を、1ヶ月に1回の職員会議や運営推進会議で検討し改善している。自己評価票は、管理者から職員へ事前に渡され、各自が項目別に事実を確認し、それらを持ち寄り2～3日かけて日頃のサービスのふり返りに活かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、第3木曜日午後4時から1時間程を運営推進会議に決めている。入居者の暮らしぶりや職員研修の報告、検討事項の提起を行い、それぞれの立場の出席者から意見やアドバイスをいただきサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>制度上わかりにくいことを確認したり、事故の報告書を提出する等、市担当者とは頻繁に連絡をとっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>できるだけ家族の来訪の機会をつくり、家族の来訪時に、入居者の日頃の様子を伝えている。また、毎月1回、請求書と「あんず便り」、個別の暮らしぶりの書かれたものを家族へ送付している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。家族が、管理者や職員へ直接話せる家族との関係を築いている。緊急性のある意見等は、その都度話し合いの場を設け解決している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来、馴染みの職員による支援を受けられるよう併設施設への職員の異動は行われていない。やむを得ない理由により1名が離職しているが、入居者への説明等を行い家族にも伝えている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>1ヶ月に1回定期的に、法人主催の研修会が企画され、自由に参加できる。また、事業所独自の勉強会を、2ヶ月に1回全員出席で実施している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会に加入し、研修会や交換研修に参加している。また、同法人のグループホーム職員との意見・情報交換をし、サービスの質の向上に活かしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	建物内にあるデイサービスの利用をしたり、入居前に居室を見たり、ホーム居間での団欒に加わるなど十分に時間をかけて、家族と本人が納得の上でサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	旬の食材や食べたいものを入居者と相談しながら献立を立てている。いなりずしや煮物等の料理によっては、作り方から味付けまで教えてくれる。また、昔話やニュースを解説してくれる等、入居者と支えあう関係で過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人の希望でトイレ近くの居室を選んだり、晩酌を楽しんだり、散歩は決まって神社へ行く等、入居者の意向を把握した支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	2～3名の入居者を1名の職員が受け持ち、日常的にニーズの把握を行い、課題については、月1回のケアカンファレンスや申し送り話し合い、入居者本位の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を決め、一人ひとりの入居者に対するモニタリングとともに、風邪が長引いている、坐骨神経痛の発症等の身体変化に合わせて、下着類の整理等入居者の状況の変化に応じ、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列病院や訪問看護、デイサービスを利用している方がホームへの入所を希望したり、ホームの入居者が系列病院で診療を受けるというように相互的に利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医による受診継続の有無を確認している。かかりつけ医への通院介助は、家族と職員が交替で行い、受診結果は口頭で伝えられている。かかりつけ医の希望が無い場合には、ホームの協力医の受診を受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの基本方針として、医療行為が多くなった場合や食事が口から摂取できなくなった場合は、医療機関への転移を勧める旨を、家族や本人に伝えている。担当医、職員ともに納得し、共有している。しかし、終末期をホームでという家族や本人の要望があれば、その都度関係者と話し合い支援する意向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する言葉かけや言葉づかいは丁寧であり、相手の人格を尊重している。個人情報に関する書類は、事務室の書庫に保管されている。また、個人情報からの写しやメモすることを禁じている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその流れはあるが、入居者のペースに合わせて生活している。昼食後に、居室に戻り歯磨きをしたり、居間でテレビを見たり、入居者の希望にそって支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の職員が中心になって、季節の食材を摂り入れた料理や入居者の食べたい物を聞いて、1週間ごとに献立を作成している。また、テーブルを拭くことや配膳や下膳等入居者の力量に応じ職員とともにやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜～土曜の午後、いつでも入浴できる準備がされている。体温測定等しながら入浴へ促し、入浴を嫌がる入居者にも少なくとも週2～3日の入浴と気持ちよく入浴できるよう声かけのタイミングをはかっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴等を把握し、それに沿った生活支援をしている。趣味を活かし花を生けたり、書を書いたり等の支援をしている。また、職員と一緒に食器を洗い、拭いたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望と体調に応じホーム周辺や神社を散歩コースに出かけている。また、日用品や晩酌をしている酒を買いに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入りは外から自由に入ることができるが、建物内からは番号キーを使わなければ外へ出られない。運営推進会議や職員会議の話し合いの結果、天気の良い日や事務室に職員が在席している時は玄関の施錠を外している。	○	今後も引き続き「鍵をかけないケアの実践」に向けた話し合いの継続と実現を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防士による避難訓練とスプリンクラー、非常ベル等の業者の点検を、入居者、職員一緒に行っている。また、地域の人々へ実施の案内を回覧版で伝え、理解を得られている。緊急時の職員連絡網や避難時の役割分担がされている。食料庫には、ペットボトル、缶詰類、インスタント食品が備蓄されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事をする事で、入居者の状態に応じた介助と摂取量を把握し、個人記録に食事量、水分量を記録している。また、入居者のマイカップの目安(150ml)を決めて飲水量を確認し、1日1ℓを目標に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間の壁面を利用し、入居者の折り紙などの作品の展示や和室に趣味の生け花を飾り、季節感を採り入れている。また共用空間の清潔を保つため、モップかけや換気等の清掃に気を遣っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洗面台、クローゼット、エアコンが設置されている。その他の家具や装飾の持ち込みは自由であり、床にカーペットを敷きいすやテーブルが持ち込まれている居室もある。専用の掃除機を持ち自室の掃除を日課にしている入居者等、一人ひとりの希望を採り入れた居室となっている。		